

# 英語教育に関する研究

津汲真太郎

本研究では、日本の英語教育における教育スタイルの現状とその問題点を明らかにすることを目的とし、アメリカのサンフランシスコとの比較を通じて考察を行った。日本では長年英語教育が行われているにもかかわらず、実際のコミュニケーション能力が十分に成熟していないという課題が指摘されている。本研究では、その背景を教育制度だけでなく、多言語社会による社会的・文化的環境に言語レベルの水準は依存していると検討していった。研究方法として、第二言語教育や英語教育に関する先行研究を基に、日本とサンフランシスコにおける言語使用の環境や教育の特徴を整理した。そして、日本の大学生を対象としたアンケート調査を Google フォームで実施し、英語教育に対しての学習者の意識や教育現場での心理的要因を調査していった。調査の結果、日本の学生は英語を主に試験や評価のための知識として捉えており、実際に使用することに不安を感じている傾向が明らかになった。一方、サンフランシスコでは英語や中国語などの多言語が日常的なコミュニケーション手段として機能しており、言語を使用する際の抵抗感が低いことが明らかになった。以上の結果から、日本の英語教育における課題は指導ガイドラインそのものだけでなく、英語を実践的に使用する文化や環境の不足にあると結論づけた。今後は、英語を従来の試験を目標にしたものではなく、日常的に使う言語として位置づけ、実践の機会を拡充する取り組みが求められる。